

令和4年度 香川県小学校社会科教育研究会

# 理事会・総会 資料

日時 令和4年5月7日(土) 10:00～

場所 附属高松小学校ランチルーム

# 総 会 次 第

1. 開会の言葉（事務局）

2. 会長挨拶（寺嶋会長）

3. 議事

(1) 令和3年度事業報告

- ① 夏季研修会報告（滝井）
- ② 定例研修会報告（網野）
- ③ 社会科の基礎・テスト編集委員会報告（藤澤）
- ④ 香社研フォーラム報告（水口）
- ⑤ 令和3年度会計報告（網野）

(2) 令和4年度

- ① 令和4年度会長・副会長選出（寺嶋会長・新会長）
- ② 本部役員・事務局選出（新会長）
- ③ 令和4年度会長挨拶（新会長）
- ④ 令和4年度運営方針（轟）
- ⑤ 香社研運営・研修年間計画（轟）
- ⑥ 令和4年度の研究について（水口）
- ⑦ 夏季研修会計画・夏季研要項プロット（藤澤）
- ⑧ 定例研修会計画（藤澤）
- ⑨ 次年度以降の各研修会計画（轟）
- ⑩ 社会科の基礎・テスト編集計画（藤澤）
- ⑪ 社会科の基礎表紙絵コンクールについて（水口）
- ⑫ 香社研若年交流会計画（網野・藤澤）
- ⑬ 研究フォーラム計画（網野・滝井）
- ⑭ 香社研平成の歩みについて（藤澤・網野）
- ⑮ 令和4年度予算案（網野）
- ⑯ 香社研会則の改定について（轟）

4. その他

- ① 令和4年度人事異動一覧（水口）
- ② 名簿について（水口）
- ③ 携帯メール（水口）
- ④ 全小社北海道大会及び熊本大会への参加について（轟）  
→ 令和4年10月28日・29日北海道大会・・・6年 三・観社研提案・発表  
令和5年 2月 2日・ 3日熊本大会 ……3年 小豆社研提案・発表
- ⑤ 四国大会愛媛大会への参加について（轟）  
→ 11月2日（水）（愛媛県松山市立宮前小学校）  
助言者2名（3・6年）、代表質問者1名（5年）選出  
→ 助言者・・・校長先生 代表質問者・・・郡市の先生に依頼
- ⑥ 令和5年度香小研丸亀大会について（轟）  
令和5年10月26日（木） 丸亀市立郡家小学校
- ⑦ 令和6年度四国大会香川大会について（轟）  
令和6年 日程調整中 観音寺市立柞田小学校

5. 閉会の言葉（新副会長）

# 令和3年度 夏季研修会報告

## 【日 程】

令和3年7月27日(火) 会場 サンポート高松 高松シンボルタワー 国際会議場・ホール棟

9:00	9:30	9:45	10:40	10:50	12:10	13:10	14:30	14:50	16:10	16:25
受付	開会行事	提案発表	移動 休憩	分科会 I 仲善支部による提案	昼食 移動	分科会 II 各支部による提案	移動 休憩	講演	閉会行事	

## 【開会行事】 9:30～9:45

部会長挨拶

香川県小学校教育研究会社会科部会 部会長 寺嶋 俊秀

来賓挨拶

香川県教育委員会事務局義務教育課 主任指導主事 林 聖士

## 【提案発表】 9:45～10:40

社会科部会提案

香川大学教育学部附属高松小学校 教諭 轟 秀明

教科等横断的な視点に立つ2タイプの社会科授業

～概念づくりの過程で「学習や豊かな人生」の基盤となる資質・能力を学習評価で育てる～

仲善支部提案

まんのう町立満濃南小学校 教諭 乗松 直樹

人間の営みに学び  
広い視野を育てる社会科学習の展開

## 【分科会 I】 10:50～12:10

10:50	11:10	11:50	12:10
提 案 (20分)	討 議 (40分)	指 導 (20分)	

分科会	单元名	提案者	協力者	指導・助言者	会場責任者
第3学年	ぼくたち・わたしたちの普通寺市をPR!!	普通寺市立 竜川小学校 教諭 新延 彩	徳増 雅俊 (仲・四条小) 大久保敬現 (善・与北小) 乗松 雄也 (善・南部小)	香川県教育委員会事務局 義務教育課 主任指導主事 林 聖士	多度津町立 豊原小学校 校長 森 昭二
第4学年	自然災害にそなえるまちづくり ーマイタイムラインで未来の災害に備えようー	多度津町立 多度津小学校 教諭 小野 咲絵	乗松 直樹 (仲・満濃南小) 綾 珠美 (仲・仲南小) 横田 航一 (仲・長炭小)	香川県教育委員会事務局 義務教育課 主任指導主事 出演 大資	琴平町立 榎井小学校 教頭 川田 真司
第5学年	飲食業の未来を変える情報	まんのう町立 琴南小学校 教諭 池田 和樹	小野 祐太 (仲・四箇小) 渡邊 啓介 (善・西部小) 花田希梨恵 (善・東部小)	香川大学教育学部 准教授 神野 幸隆	まんのう町立 四条小学校 校長 佐柳 仁
第6学年	ごみの海洋投棄問題に対する日本の国際協力 ー日本とベトナムの繋がりからー	多度津町立 白方小学校 教諭 吉原 彬宏	香川 卓也 (仲・琴平小) 岡田 直也 (仲・満濃南小) 高橋 勇大 (善・筆岡小)	香川大学教育学部 教授 鈴木 正行	琴平町立 琴平小学校 教頭 渡部 岳史

## 【昼食・移動】 12:10～13:10

【分科会Ⅱ】 13:10～14:30

13:10	13:30	14:10	14:30
提 案 (20分)	討 議 (40分)	指 導 (20分)	

分科会	学年	各支部研究主題／「单元名」	提案者	協力者	指導者	分科会責任者
① さ・東 小豆	5	社会的事象の見方・考え方を働かせ、これからの社会に生きる子どもを育てる社会科学学習 「あたたかい土地の暮らし」	土庄町立 土庄小学校 教諭 長谷川 由佳	阪倉 順子 (小・苗羽小) 上嶋 光晴 (小・池田小) 高橋 大喜 (小・土庄小) 竹迫 春香 (小・星城小)	高松市立 亀阜小学校 教頭 真鍋 長嗣	土庄町立 土庄小学校 校長 役重 和雅
② 三観	6	子どもが自ら問いを追究し、納得へと向かう社会科学学習の展開 ー子どもの「心情」を起点とした学習活動を通してー 「明治の国づくりを進めた人々～「今の日本」「未来の日本」国づくりを進めたそれぞれの道～」	観音寺市立 柞田小学校 教諭 半澤 友博	白川 康太 (観・常磐小) 古子 貴将 (観・柞田小) 高橋 史弥 (観・高室小) 綾 敬太 (観・豊浜小)	高松市立 川東小学校 教頭 仁科 大成	観音寺市立 大野原小学校 校長 深川 隆
③ 高松 (北)	3	資質・能力の育成を目指し、問題解決的実践学習を「2タイプの学習」により深める ～21世紀型の思考・表現を求め、概念の獲得過程を追究する～ 「いきいきとすごせる高松市のよさを見つけよう！」	高松市立 亀阜小学校 教諭 角 昌平	石田 優太 (高・亀阜小) 吉岡 光平 (高・亀阜小) 河本 和朗 (高・亀阜小) 造田 和高 (高・大野小)	東かがわ市立 引田小学校 教頭 白澤 一修	高松市立 木太北部小学校 校長 市原 茂幹
④ 坂・綾	3	未来を切り拓く子どもの育成につながる質の高い社会科学学習の創造 「わたしたちの町 ーあや川ー」	綾川町立 昭和小学校 教諭 藤田 順也	後藤 亮 (綾・昭和小) 谷口智恵子 (綾・宇多津小)	三豊市立 詫間小学校 教頭 藤本 博文	綾川町立 綾上小学校 校長 福家 光洋
⑤ 丸亀	3	自分事として社会参画していくことができる児童を育む未来志向型社会科学学習の展開 「2つの商店街から見えるもの ～私たちが丸亀のOIKAZEになる～ (市の移り変わり)」	丸亀市立 岡田小学校 教諭 尾崎 純一	藤岡 敬済 (丸・城東小) 櫻井 道芳 (丸・城坤小) 増井 泰弘 (丸・城乾小) 引田 宏平 (丸・郡家小)	琴平町立 琴平小学校 教頭 渡部 岳史	丸亀市立 飯山南小学校 校長 大野 啓司
⑥ 高松 (南)	6	資質・能力の育成を目指し、問題解決的実践学習を「2タイプの学習」により深める ～21世紀型の思考・表現を求め、概念の獲得過程を追究する～ 「縄文のむらから古墳のくにへ」	高松市立 香西小学校 教諭 古田 将大	池田 康輔 (高・栗林小) 山下 悠 (高・栗林小) 高木 翔大 (高・木太小) 加藤 優 (高・木太小)	丸亀市立 岡田小学校 教頭 北分 英樹	香川大学教育学部 附属高松小学校 副校長 大嶋 和彦

【講演】 14:50 ～ 16:10 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 小倉 勝登

【閉会行事】 16:10 ～ 16:25  
 仲善支部挨拶 香川県小学校教育研究会 社会科部会 仲善支部 部会長 森 昭二  
 副部会長挨拶 香川県小学校教育研究会 社会科部会 副部会長 富田 明

【参加人数】 216人

【成果と課題】

社会科を軸とした教科等横断的な視点で複数の教科を絡めた単元を開発した魅力的な各支部の実践が見られた。単元構想シートの作成、教科書分析、単元構成の工夫等により深い学びを実現するための社会科授業づくりについての提案が見られた。

学習指導要領に基づく社会科授業実践のために、学習指導要領改訂の意図をしっかりと理解し、問題解決的な学習をより充実させていきたい。

## 令和3年度 定例研修会報告

### ○さ・東, 坂綾社研定例会

日 時: 11月6日(土) 9:00~12:00

場 所: 坂出市立府中小学校

【さ・東】「小中社会科の系統的な接続と指導」

提案者: 東かがわ市立引田小中学校 教頭 白澤 一修 先生

指導者: 高松市総合教育センター 研修係長 河田 祥司 先生

【坂綾】第3学年「坂出市の様子」

提案者: 坂出市立府中小学校 教諭 岡野 彩香 先生

指導者: 琴平町立琴平小学校 教頭 渡部 岳史 先生



### ○三観, 丸亀社研定例会

日 時: 11月27日(土) 9:00~12:00

場 所: 丸亀市立飯山南小学校

【三観】第6学年「天皇中心の国づくり~受け継がれる!よりよい新しい国づくり~」

提案者: 観音寺市立観音寺小学校 教諭 都築 春信 先生

指導者: 三豊市立詫間小学校 教頭 藤本 博文 先生

【丸亀】第5学年「どうする, 日本の食料生産!!」

提案者: 丸亀市立郡家小学校 教諭 黒崎 侑希 先生

指導者: 香川県教育センター 指導主事 宮脇 隆文 先生



### ○高松社研定例会

日 時: 12月11日(土) 13:00~15:35

場 所: 附属高松小学校 ランチルーム

提案①: 第3学年「市の様子」

提案者: 高松市立円座小学校 教諭 谷口 真心 先生

高松市立円座小学校 教諭 久保 祐亮 先生

提案②: 第3学年「農業の仕事」

提案者: 高松市立川岡小学校 教諭 松本 拓 先生

高松市立川添小学校 教諭 中筋 修 先生

指導者: 高松市総合教育センター 研修係長 河田 祥司 先生



# 令和3年度 社会科の基礎・テスト 編集委員会

## 1 本年度の課題と年間計画

### (1) 本年度の重点事項

- 子どもにとって「力が伸びる、伸びが分かる」基礎・テスト。  
基礎的な知識・理解、技能の習得と、それらを活用して解決する問題の作成。
- 教職員にとって「本当に使える」基礎・テスト  
3社の教科書に対応した指導要領準拠の問題作成。（新指導要領を見据えた問題）  
分かりやすい解答表記、使いやすい教科書対応ページ表記などの工夫。
- 新学習指導要領完全実施に着実に対応した基礎・テスト  
新学習指導要領に対応した教科書を参考に、指導要領準拠の基礎・テストを作成する。

### (2) 年間計画等

今年度、年4回（前期版・後期版）の編集会議を行う。

年	令和3年										令和4年		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
作成予定			①	②									
		R4年前期版作成											
			②			③	④						
			R4年後期版作成										

### 【年間計画】

	回	日時	内容	備考
前期版作成		5 / 15 (土) までに担当を決定し、各学校に送付します。	担当決め	■事務局が指定したまとめ役の先生を中心に、単元等の役割分担を行う。
	①	<del>6 / 12 (土) 14:00～</del> <del>(附属高松小ランチルーム)</del>	協議・作成	※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、6月12日の検討会は中止し、Googleフォームと郵送により検討を行った。
	②	7 / 10 (土) 9:30～ (附属高松小ランチルーム)	最終の話し合い	
	提出	<input checked="" type="checkbox"/> 11 / 15 (月) <input checked="" type="checkbox"/> 11 / 24 (水)	まとめ役必着 事務局藤澤必着	
後期版作成	②	7 / 10 (土) 9:30～	担当決め	■令和4年度後期版担当決めを行う。
	③	<del>9 / 11 (土) 14:00～</del> <del>(附属高松小ランチルーム)</del>	協議・作成	※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、9月11日と10月9日の検討会は、11月27日に延期して行った。その間、Googleフォームと郵送でも検討を行った。
	④	<del>10 / 9 (土) 14:00～</del> <del>(附属高松小ランチルーム)</del>	最終の話し合い	■交通費、執筆費受領
	提出	<input checked="" type="checkbox"/> 1 / 7 (金) <input checked="" type="checkbox"/> 1 / 21 (金)	まとめ役必着 事務局藤澤必着	

編集作業では、次のように役割分担し、上記の計画に沿って行う。

### 【役割分担】

■編集責任者（指導、添削等）	・・・教頭先生
■まとめ役（原稿執筆、司会、取りまとめ等）	・・・編集者の中から1名
■編集者（原稿執筆）	・・・残りの先生方
■編集補助【事務、研究】	・・・事務局5名

## 令和3年度 香社研フォーラム（香社研冬季研）報告

### 1 ねらい

コロナ禍により今年度の定例研が中止（未定）になったことを受け、各郡市の研究実践を県下および全国へ発信する機会を保障する。また、これまでの実践から出てきた課題や疑問、全国の社会科の動向、With コロナ時代に対応した社会科学習の在り方などについて小倉勝登教科調査官に指導をいただき、参加者がこれからの社会科学習の実施に向けて具体的な見通しや展望をもてるようにする。

### 2 場所

オンラインでの実施

### 3 日程

令和4年 2月19日（土）13：00～

### 5 当日日程（オンラインの場合も同様）

12：00～12：30 パネラーによる事前打合せ

13：00～13：05 開会行事・事務局から

13：05～13：40 研究部より来年度以降の研究方針提案

13：40～15：10 パネルディスカッション

「来年度以降の香社研および各郡市の研究方針」について

15：10～15：15 閉会行事

### 4 成果

- ・香小研大会や四国大会に向けた新たな香社研の研究方針を会員の先生方と共に協議することができた。これにより、会員の先生方と研究方針や内容について共通理解を図ることができた。
- ・香小研大会を担当する丸亀市立郡家小学校の先生方も多数参加していただき、研究内容について理解を深めてもらうことができた。今後もこの繋がりを大切にしながら、香社研として様々な面から大会の開催に向けて、支援を行っていききたい。
- ・研究提案の内容について、新たな提案内容である「社会形成力」について、様々な視点からご意見をいただくことができた。学習指導要領で育成を目指す3つの資質・能力との関係性や社会形成力を育むための具体的な方策など、今後研究を深めていく視点を獲得することができた。

### 5 課題

- ・来年度以降、夏季研やフォーラムにおける各郡市の実践提案をもとに、香社研研究論をよりよいものに修正していく。各郡市からの実践を研究論に反映していくことが、組織全体で研究を進めているという実感につながるだろう。

# 令和3年度 会計報告書

香川県小学校社会科教育研究会

## 1 収入の部

科目	令和3年度予算	令和3年度決算	備考
会費	155,000	155,000	1,000円×155人(高松55, 仲善23, 三観19, 丸亀15, 坂綾23, さ東11, 小豆9)
合計	155,000	155,000	

## 2 支出の部

科目		令和3年度予算	令和3年度決算	備考
研究推進費	定例会会場費	60,000	60,000	10,000円×6支部
	夏季研会場費	20,000	20,000	夏季研当番都市へ
	図書費	3,000	5,060	
	研究フォーラム	10,000	30,660	モバイルモニター ヘッドセット
	その他	5,000	24,430	コンテナ, 台車
印刷費	総会要項等	50,000	4,970	用紙
	研究冊子等			
事務費	事務用品	5,000	8,000	文具等消耗品
	通信費	2,000	1,880	切手
来年度繰越金		0	0	
合計		155,000	155,000	

香川県小学校社会科教育研究会の事業及び経理状況について、関係諸帳簿、証拠書類等を監査した結果、適正に執行処理されていることを認めます。

2022年3月31日

監査

大野 啓司   
大嶋 和彦 

## 令和4年度本部役員組織（案）

香川県小学校教育研究会社会科部会

香川県小学校社会科教育研究会

	氏名	学校名
会長	寺嶋 俊秀	坂出市立金山小学校
副会長	大野 啓司	丸亀市立飯山南小学校
	大高 哲也	さぬき市立造田小学校
	市原 茂幹	高松市立木太北部小学校
幹事	小笠原 学	三木町立氷上小学校
	森 昭二	多度津町立豊原小学校
	役重 和雅	土庄町立土庄小学校
	深川 隆	観音寺市立常磐小学校
会計	福家 光洋	綾川町立綾上小学校
監査	大嶋 和彦	香川大学教育学部附属高松小学校

### 顧問（歴代会長）

亀井達男  
大西孝典  
唐木裕志  
柴田英明  
上井嘉

曾根照正  
山崎敏和  
佐藤正文  
森正彦

中田清  
植松勝  
徳田仁司  
亀井伸治

上川敦生  
高橋英弐  
野村一夫  
福岡和信

### 事務局

轟秀明  
滝井康隆

水口純  
網野未来

藤澤大地

【事務局の役割分担】

事務局 事業内容		附属高松小			附属坂出小	
		轟	水口	藤澤	滝井	網野
研究・運営	研究	○	◎	○	○	○
	理事会・総会	○	◎	○	○	○
研修	夏季研修会	○	○	◎	○	○
	研究フォーラム				○	◎
	定例研修会	東○	東○	東◎	西○	西◎
各種事業	社会科の基礎・テスト	○	○	◎	○	○
	香社研だより (情報発信)			東◎		西◎
	社会科教室発行			175号		176号
	実地研修			◎		◎
	委託事業				◎	
携帯連絡網管理				◎		○
HP、Facebook 管理		○	◎	○	○	◎
四国社会科協議会理事会		◎			○	
会計		◎			◎	○

【事務局メールアドレス】

- 轟秀明（附属高松） [todoroki.hideaki@kagawa-u.ac.jp](mailto:todoroki.hideaki@kagawa-u.ac.jp)
- 水口純（附属高松） [mizuguchi.jun@kagawa-u.ac.jp](mailto:mizuguchi.jun@kagawa-u.ac.jp)
- 藤澤大地（附属高松） [fujisawa.daichi@kagawa-u.ac.jp](mailto:fujisawa.daichi@kagawa-u.ac.jp)
- 滝井康隆（附属坂出） [takii.yasutaka@kagawa-u.ac.jp](mailto:takii.yasutaka@kagawa-u.ac.jp)
- 網野未来（附属坂出） [amino.mirai@kagawa-u.ac.jp](mailto:amino.mirai@kagawa-u.ac.jp)

# 令和4年度運営方針（案）

香川県小学校社会科教育研究会

## I 研究の在り方について

- ① 各支部の独自性を生かしつつ、全県が一体となって研究に取り組んでいくことが重要である。香社研の会員は、個人としての研究も大切にしつつ、組織で研究を進めることを大切にしたい。今年度も香社研においては各支部の研究と個人研究の両面を大切にしていきたい。
- ② 研究は、積み重ねが重要で、その核となるものは授業力である。これは学校の研究においても同じで、その学校の伝統を積み上げて「特色ある学校づくり」をしていく必要がある。香社研は、その時々の課題や思いや論を単独に研究するものではない。伝統として積み重ねてきた研究の上に立ち、その時の課題を正面から受け止め研究を深めていきたい。時流に流された内容に偏らないようにしたい。

## II 運営について

### 1 運営全体

- ① 若い世代が増え、香社研も新しい顔ぶれがどんどん増えている。その一方で働き方改革の波、新型コロナウイルス感染症というこれまでに経験したことのない非常事態の中で、研修の場が失われつつあるのも現実である。平成28年度の全国大会、平成30年度及び令和2年度の県大会で育まれた研究の熱を絶やさないように、会員の意欲が向上できる環境を確保し、新しい形での研究の姿、方法、在り方を深めていきたい。香川県から発信する、提案していくという気概をもち、自分の力をつけるために、ひいては子どもたちの学びにつながるという意識で参加・参画するという思いをもつようにしたい。若い教員が積極的に参加し、主体となって企画・運営を行えるようにするなど、香社研の中で学びを深め、力をつけていくことができるような研修の在り方を探っていきたい。
- ② 「香社研」の特色づくりをもとに、様々な研修会において若年層、女性、さらには他教科に携わる先生方の参加者数を増やす方向で取り組む。

### 2 総会、反省会

- ① 総会は、今年度の運営方針、研究の方向性を明らかにする場である。紙面上でしっかりと県内に発信し、多くの会員に今年度の取り組みが伝わるように努める。
- ② 反省会等は、各郡市の交流の場でもある。新型コロナウイルス感染症が落ち着き、積極的に交流ができるようになった暁には、全県、OBにも声をかけ、県全体のつながりを強くしていく場になるように努める。

## III 研修会について

### 1 夏季研修会

- ① 夏季研は香小研社会科部会と香社研が主催する。
- ② 夏季研は、当該年度の各郡市の研究の成果を発表する場として位置付ける。香小研社会科部会並びに香社研として会員全員が集まる唯一の機会でもあるので、香社研のテーマに沿いながら、各郡市の発表を工夫して行う。
- ③ 夏季研修会の会場確保及び運営については、当番郡市が中心になって行う。

## 2 定例研修会

- ① 定例研修会は、香社研が主催する。
- ② 定例研修会は、各郡市が香社研の研究主題を受けて特色ある研究主題を設定し、その研究成果と課題を公表することにより香川の社会科教育の発展に資するものである。香社研の研究が充実するよう提案の工夫を行う。提案発表、実践紹介、授業公開、地域教材の紹介、模擬授業、香社研だよりによるアピールなど、各郡市の特色を出し、魅力あるものにしていく。
- ③ 定例研修会の担当を中心に、研究の推進と香社研のつながりや、仲間意識の醸成のために確保するために参加者が増えるように、魅力ある研修会の持ち方の工夫や声かけなどの宣伝を積極的に行う。
  - ・ 事務局は、全ての定例会に参加する。
  - ・ 指導者は当番郡市が依頼する。
- ④ 定例研修会の会場確保、指導者の依頼、運営については当番郡市が中心になって行う。
- ⑤ 新型コロナウイルス感染症拡大によって集合研修が難しい場合に際して、オンラインでの研修会もできるように、通信機器やPC端末等を事務局で用意する。

## 3 研究フォーラム

- ① 研究フォーラムは香社研が主催する。
- ② 各郡市の年間の研究成果を発信し、それを参加者が共有できる場とする。
- ③ 隔年で研究フォーラムを開催し、隔年では実践交流会等を行い、常に最新の情報や研究に取り組むことができるようにしていく。
- ④ 今年度は、実践交流会を行う予定。

## Ⅲ 研究大会について

- ① 研究大会は、香小研社会科部会と香社研が主催する。
- ② 研究内容は、香社研の研究内容を基盤として会場校の特色を生かした内容で研究を進める。
- ③ 大会の運営については、その都度香社研本部が提案し、理事会の議を経て行う。

## Ⅳ 基礎・テストの編集について

- ① 社会科の基礎・テストについては、学力の充実を図る目的をもって、全国的・全県的な視野に立った編集を行う。
- ② 教科書、地図帳等に基づき編集を行い、学習の補充と発展を図り、適切な評価が行えるよう常に改善に努める。
- ③ 基礎・テストの内容の充実のため、適切な検討の機会を設ける。
- ④ 質の向上を図る意味から3～6年に教頭・主幹教諭等の指導者を置く。
- ⑤ 会場費、執筆費、編集費、教材費等を確保し、円滑に編集が行えるようにする。

## V その他

- ① 研究を深めたり、香社研の発展のために、携帯メールやHP、SNS等を使い、積極的に情報を発信、共有したりしていく。
- ② クラウドシステムを積極的に活用し、庶務の負担軽減、情報の集約等を行う。

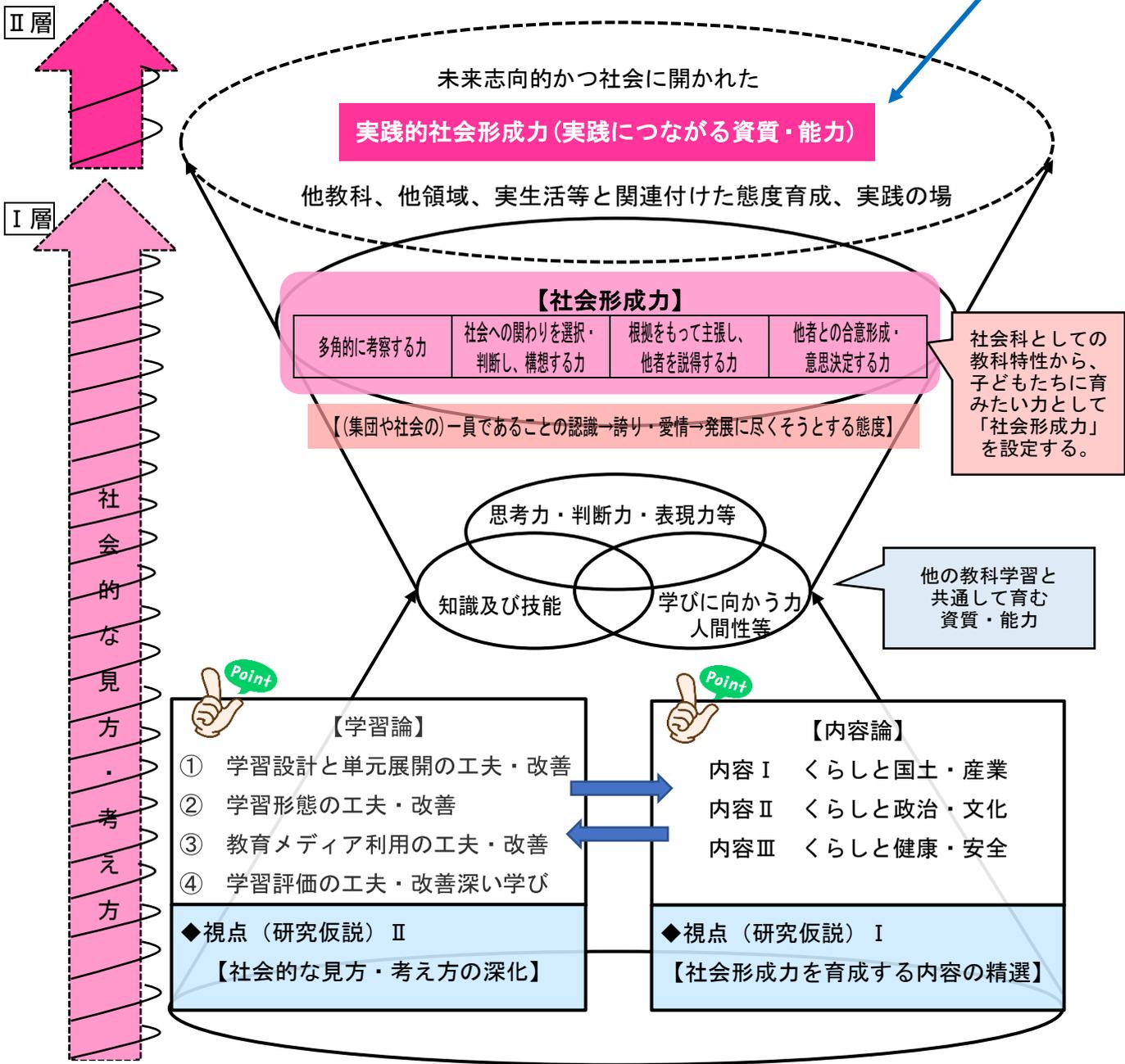
# 令和4年度 香社研 年間運営・研修計画

月	理事会 総会 研究会	運営部			編集部	情報発信部
		定例研修会 研究フォーラム	夏季研修会	実地研修 (フィールドワーク)	基礎・テスト 編集委員会	社会科教室 香社研だより
4						
5	<b>7日(土)</b> 10:00～ 理事会(総会) (附属高松小) 歓送迎会 →中止			<b>14日(土)</b> <del>11:30～</del> フィールドワーク 実行委員会 (附属高松小)	<b>(中止)</b> <b>14日(土)</b> <del>9:30～</del> 第1回編集会 (附属高松小)	社会科教室 第175号 (総会特集)
					資料送付・電話連絡等での役割分担	
6	(未定) 全小社理事会 (東京)		<b>4日(土)</b> 9:30～ 事前検討会① (附属高松小)	<b>18日(土)</b> 9:30～ 事前検討会① (附属高松小) 各郡市提案者 協力者参加	<b>4日(土)</b> 9:30～ 第2回編集会 (附属高松小)	
			<b>18日(土)</b> 9:30～ 事前検討会① (附属高松小) 各郡市提案者 協力者参加	<b>30日(木)</b> 申込締切		
7	<b>26日(火)</b> 16:30～ 理事会 ※開催の必要 がある場合 のみ		<b>2日(土)</b> 13:30～ 事前検討会② (附属高松小)	<b>20日(水)</b> 日程・乗車 ポイント等発送 (事務局)	<b>2日(土)</b> 9:30～ 第3回編集会 (附属高松小)	
			<b>26日(火)</b> 9:30～ 夏季研事前準備 (事務局・高松) 13:00～ 夏季研修会 (高松)			
8				<b>27日(土)</b> <b>28日(日)</b> 実地研修 (見学地検討中)		
9		<b>10日(土)</b> 9:00～ 第1回定例研 (高松・丸亀) 会場 (附属高松小学校)			<b>10日(土)</b> 14:00～ 第4回編集会 (附属高松小)	<b>23日(金)</b> 香社研だより (定例研報告) (高松・丸亀) ※随時HP掲載

月	理事会 総会等	運営部			編集部	情報発信部
		定例研修会 研究フォーラム	夏季研修会	実地研修	基礎・テスト 編集委員会	社会科教室 香社研だより
10	<b>27日(木)</b> <b>28日(金)</b> 全国大会 全小社理事会 (北海道)	<b>1日(土)</b> 9:00～ 第2回定例研 (仲善・三観) 会場 (満濃南小学校)			<b>1日(土)</b> 14:00～ 第5回編集会 (附属高松小)	<b>14日(金)</b> 香社研だより (定例研報告) (仲善・三観)
11	<b>2日(水)</b> 第43回四国 社会科教育研究大会 (愛媛大会)	<b>12日(土)</b> 9:00～ 第3回定例研 (小豆・坂綾) 会場 (附属高松小学校)				<b>25日(金)</b> 香社研だより (定例研報告) (小豆・坂綾)
12	<b>3日(土)</b> 16:00～ 理事会 (附属高松小) 18:00～ 年末反省会 (場所未定)				入稿・校正作業 (事務局)	
1	<b>27(金)</b> 附属坂出小学校 研究発表会				入稿・校正作業 (事務局)	
2	<b>2日(木)</b> <b>3日(金)</b> 全国大会 (熊本) 附属高松小学校 初等教育研究発表会	<b>18日(土)</b> 13:00～ 研究フォーラム (附属坂出小)			入稿・校正作業 (事務局)	<b>24日(金)</b> 本年度総括 各郡市提出
3	<b>26日(日)</b> 10:00～ 理事会 (附属高松小)					社会科教室 第176号 (本年度のまとめ)
備考						

多様な他者とともに、これからの時代を主体的に生き抜くための  
 社会形成力を育てる社会科学習の創造  
 ～公民としての資質・能力の基礎をはぐくむ学習論の再構築～

◆視点（研究仮説）Ⅲ    
 【教育課程を通して他教科や他領域、経験等との有機的な関連を図った実践的社会形成力の育成】



【社会形成力、社会的な見方・考え方の関係と研究の視点】

# 令和4年度 夏季研修会日程（案）

## 【日程】

12:30	13:00	13:15	13:35	13:45	15:00	15:10	16:10	16:25
受付	開会行事	提案発表	移動 休憩	分科会	移動 休憩	講演	閉会行事	

## 【開会行事】 13:00～13:15

挨拶 香川県小学校教育研究会社会部会 部会長 寺嶋 俊秀

来賓挨拶 香川県教育委員会事務局義務教育課 主任指導主事 出演 大資

## 【提案発表】 13:15～13:35（県20分）

社会科部会提案

多様な他者ととも、これからの時代を主体的に生き抜くための社会形成力を育てる社会科学習の創造  
～公民としての資質・能力の基礎をはぐくむ学習論の再構築～

香川大学教育学部附属高松小学校 教諭 水口 純

## 【分科会】 13:45～15:00 ※詳細は次ページに示す

13:45	14:45	15:00
提案及び討議 (60分) ※時間配分は分科会の裁量		指導 (15分)

## 【分科会の詳細】

① 高松北	研究主題「							」	
	主張点「							」	
	单元名「							」	
	提案者：高松市立〇〇小学校	教諭	〇〇	〇〇					
	協力者：高松市立〇〇小学校	教諭	〇〇	〇〇	高松市立〇〇小学校	教諭	〇〇	〇〇	
		高松市立〇〇小学校	教諭	〇〇	〇〇	高松市立〇〇小学校	教諭	〇〇	〇〇
	代表質問者：高松市立〇〇小学校	教諭	〇〇	〇〇					
指導助言者：高松市立〇〇小学校	教頭	〇〇	〇〇						
分科会責任者：高松市立〇〇小学校	校長	〇〇	〇〇						
② 高松南	研究主題「							」	
	主張点「							」	
	单元名「							」	
	提案者：高松市立〇〇小学校	教諭	〇〇	〇〇					
	協力者：高松市立〇〇小学校	教諭	〇〇	〇〇	高松市立〇〇小学校	教諭	〇〇	〇〇	
		高松市立〇〇小学校	教諭	〇〇	〇〇	高松市立〇〇小学校	教諭	〇〇	〇〇
	代表質問者：高松市立〇〇小学校	教諭	〇〇	〇〇					
指導助言者：高松市立〇〇小学校	教頭	〇〇	〇〇						
分科会責任者：高松市立〇〇小学校	校長	〇〇	〇〇						

③ 小豆	研究主題「							」
	主張点「							」
	単元名「							」
	提案者：	町立〇〇小学校	教諭	〇〇	〇〇			
	協力者：	町立〇〇小学校	教諭	〇〇	〇〇	町市立〇〇小学校	教諭	〇〇 〇〇
		町立〇〇小学校	教諭	〇〇	〇〇	町市立〇〇小学校	教諭	〇〇 〇〇
	代表質問者：	町立〇〇小学校	教諭	〇〇	〇〇			
指導助言者：	町立〇〇小学校	教頭	〇〇	〇〇				
分科会責任者：	町立〇〇小学校	校長	〇〇	〇〇				
④ 坂・綾	研究主題「							」
	主張点「							」
	単元名「							」
	提案者：	市立〇〇小学校	教諭	〇〇	〇〇			
	協力者：	市立〇〇小学校	教諭	〇〇	〇〇	市立〇〇小学校	教諭	〇〇 〇〇
		市立〇〇小学校	教諭	〇〇	〇〇	市立〇〇小学校	教諭	〇〇 〇〇
	代表質問者：	市立〇〇小学校	教諭	〇〇	〇〇			
指導助言者：	市立〇〇小学校	教頭	〇〇	〇〇				
分科会責任者：	市立〇〇小学校	校長	〇〇	〇〇				
⑤ 丸亀	研究主題「							」
	主張点「							」
	単元名「							」
	提案者：	市立〇〇小学校	教諭	〇〇	〇〇			
	協力者：	市立〇〇小学校	教諭	〇〇	〇〇	市立〇〇小学校	教諭	〇〇 〇〇
		市立〇〇小学校	教諭	〇〇	〇〇	市立〇〇小学校	教諭	〇〇 〇〇
	代表質問者：	市立〇〇小学校	教諭	〇〇	〇〇			
指導助言者：	市立〇〇小学校	教頭	〇〇	〇〇				
分科会責任者：	市立〇〇小学校	校長	〇〇	〇〇				
⑥ 仲・善	研究主題「							」
	主張点「							」
	単元名「							」
	提案者：	市立〇〇小学校	教諭	〇〇	〇〇			
	協力者：	市立〇〇小学校	教諭	〇〇	〇〇	市立〇〇小学校	教諭	〇〇 〇〇
		市立〇〇小学校	教諭	〇〇	〇〇	市立〇〇小学校	教諭	〇〇 〇〇
	代表質問者：	市立〇〇小学校	教諭	〇〇	〇〇			
指導助言者：	市立〇〇小学校	教頭	〇〇	〇〇				
分科会責任者：	市立〇〇小学校	校長	〇〇	〇〇				
⑦ 三・観	研究主題「							」
	主張点「							」
	単元名「							」
	提案者：	市立〇〇小学校	教諭	〇〇	〇〇			
	協力者：	市立〇〇小学校	教諭	〇〇	〇〇	市立〇〇小学校	教諭	〇〇 〇〇
		市立〇〇小学校	教諭	〇〇	〇〇	市立〇〇小学校	教諭	〇〇 〇〇
	代表質問者：	市立〇〇小学校	教諭	〇〇	〇〇			
指導助言者：	市立〇〇小学校	教頭	〇〇	〇〇				
分科会責任者：	市立〇〇小学校	校長	〇〇	〇〇				

【講演】 15:10～16:10

講演

文部科学省初等中等教育局教育課程課

教科調査官

小倉 勝登

これからの香川県の社会科に期待すること（仮）

【閉会行事】 16:10～16:25

高松支部挨拶

香川県小学校教育研究会 高松支部 社会科部会

部会長

市原 茂幹

副部会長挨拶

香川県小学校教育研究会 社会科部会

副部会長

大野 啓司

## 令和4年度 夏季研修会 研究の方向性

### 視点Ⅰ…主に内容知(社会形成力を育成する内容の精選)の側面から

#### 社会形成力を育成するために必要な内容知及び教材開発・教材化の在り方を明らかにする

社会形成力の育成の視点から、教科書や副読本の分析を通じて、共通して見られる用語、主な学習活動、育てたい資質・能力等について明らかにする。それらをもとに、地域や児童の実態、現代的な諸課題を踏まえながら、どのような社会事象を取り上げるべきか、またそれをどのように教材化するか具体を明らかにしていく。社会事象のどの側面を、どのように取り上げるのか、どのように子どもたちが課題を捉えたり、主体的に追求を深めるようにするのか、目指す子どもの姿や獲得すべき学習内容、社会形成力の育成を視点に実践から検証していきたい。(詳細は香社研研究論を参照)

### 視点(研究仮説)Ⅱ…主に学習論(社会的な見方・考え方の深化)の側面から

#### 社会的な見方・考え方を繰り返し働かせ、育む学習過程や学習活動の在り方を明らかにする。

##### (1) 生きて働く知識を獲得する過程で社会的な見方・考え方を働かせる

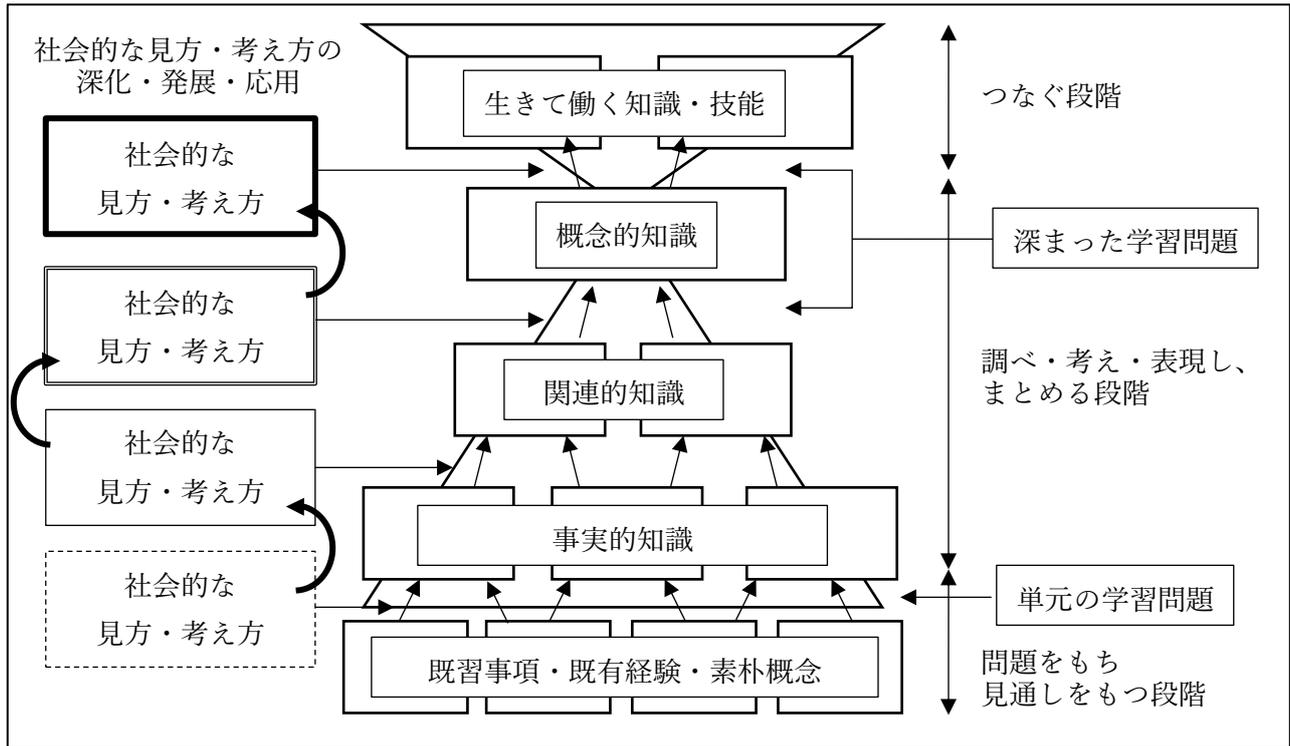
社会科学習では、固定化された静的な知識・技能を学ぶのではなく、子どもたちが大人になったときに、よりよい社会の形成者となるための生きて働く知識・技能を習得できるようにすることが重要である。特に、生きて働く知識とは、より汎用的で応用性のある知識である概念的知識を用いて「何ができるか」や、それらを「どう使うか」にまで考えを発展させ、様々な課題解決を図ったり、学んだことを生活に役立てたりできるような「知識」である。例えば、第5学年の産業学習で獲得した「これからは持続可能な社会づくりが求められる」という知識は、今後子どもたちが生きていく中で直面する様々な課題において、その解決を図るための一助になると考えられる。このような知識が社会科学習の中で閉じるのではなく、子どもたちが生きていく中で実際に活用できるような、「生きて働く知識」にまで質的に高めることで、子どもたちは将来、よりよい社会を形成するために学んだことを生かすことができるようになるだろう。

このような、生きて働く知識の獲得のために重要なことは、子どもたち自身が知識を獲得していくことである。つまり、子どもたちが知識を獲得する学習過程(プロセス)が社会科学習の中に組み込まれることが求められる。教師から教えられた知識ではなく、子どもたちが自ら体験したり、調べたりして得られた知識を「社会的な見方・考え方」を働かせることによって、複数の知識を比較・関連・総合させてより汎用的な概念的知識として形成していくことで実感を伴った知識になっていく。さらに、獲得した概念的知識を実際に活用し選択・判断する場面を設定したり、集団での吟味により再構成したりする過程を経ることで、真に生きて働く知識として質が高まっていくだろう。

##### (2) 社会的な見方・考え方を働かせる学習過程や支援と知の構造化

生きて働く知識として知識の質を高めるため欠かせないことは、「社会的な見方・考え方」を働かせ、知識と知識をつなぎながら「問い」を追究するような学習過程であり、いわゆる「深い学び」の実現である。そこで、子ども自身が自らの学びの見通しをもち、主体的に問題解決を図る学習過程を大きく3段階に分け、それぞれの学習過程において、社会的な見方・考え方を働かせ、深い学びを実現するための具体的な学習過程や学習活動の在り方を探っていく。単元や内容のまとまりの学習の中で、問いの解決のために、何度も社会的な見方・考え方を繰り返し働かせ、単元の始めに子どもたちがもっていた見方・考え方がより深化し、発展するような学習過程の在り方を探る。

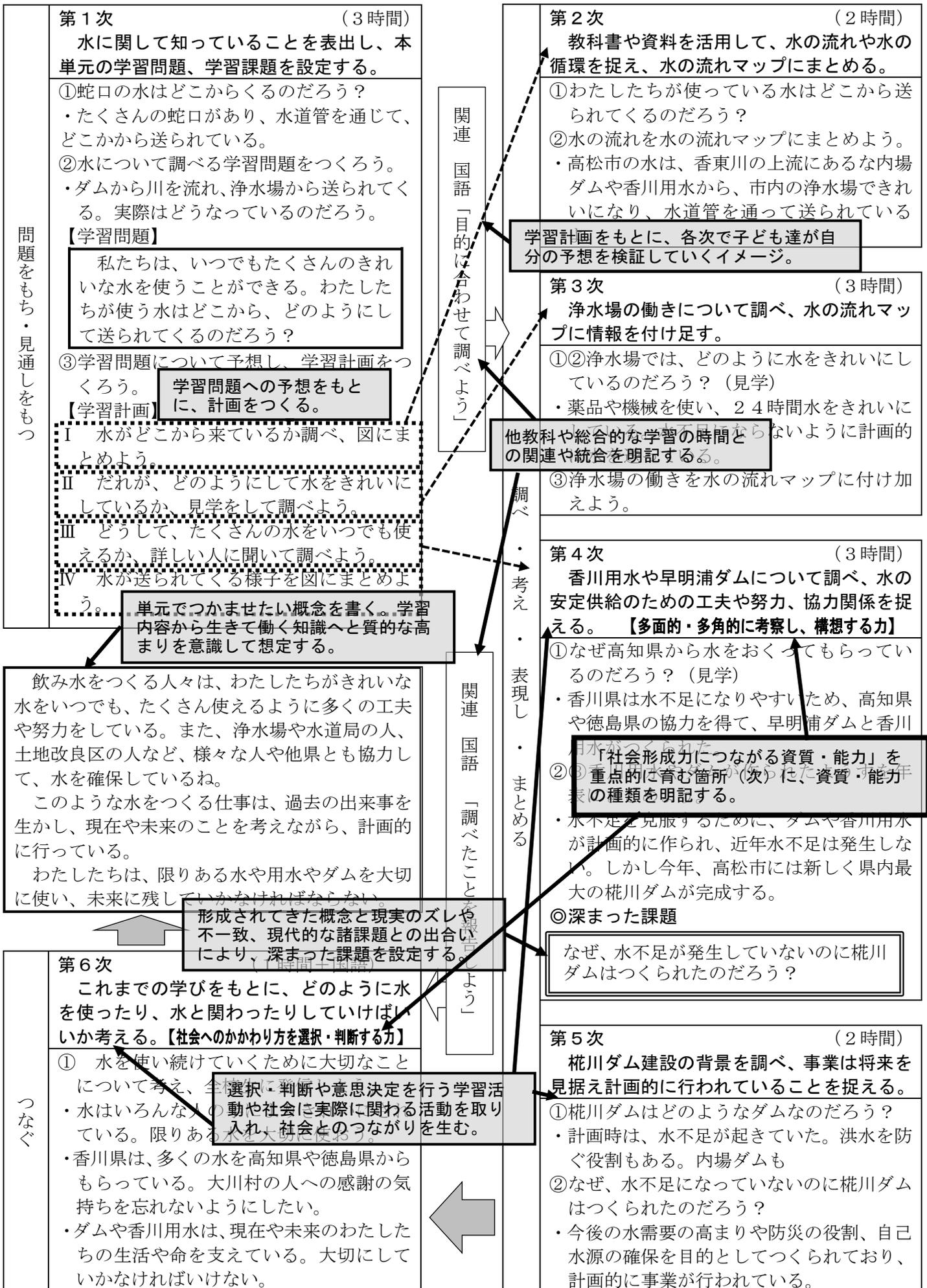
方策Ⅰ 授業づくりの段階 知の構造化（知識の構造図づくり）



教師は授業づくりの段階において、子どもたちが社会的な見方・考え方を働かせることにより、既有の知識や新たに得た知識同士が、どのように概念的知識へと質が高まっていくのかを想定しておく必要がある。そのために、教材研究や教科書分析によって得られたことを、知の構造図としてまとめていく。これにより、教師は単元の本質を見極め、社会的な見方・考え方を働かせる具体的な場面を想定することができる。

まず、これまでの学習によって得られた子どもたちの既習知識や学級の実態に応じた既有経験を整理し、最下層に置く。次に、教材研究や教科書分析により見出した内容をまとまりごとに整理していく。はじめは具体的な事実に関する「具体的知識」を獲得し、具体的な知識同士が社会的な見方・考え方によって結びつけられ「関連的知識」に質的に高まっていく。さらに、関連的知識が結びつき「概念的知識」として、子どもたちが獲得していく過程を想定する。最終的に、深まった問いや選択判断を問う活動などを通じて、概念的知識を活用したり、再構成したりすることにより生きて働く知識に質的転換を図っていく。このような知識の質的な高まりを事前に整理・想定しておくことが、実際の子どもの学習のストーリー（単元構想）の土台となり、本質的な学びを保障することにつながる。

特に、生きて働く知識・技能を獲得するためには、どのような支援が有効であるか、実践と子どもの姿から検証していきたい。社会的な見方・考え方を働かせ、知識の質を高めていくような単元の山場では、子どもたちの見方・考え方の「観点変更」や知識を「転移・応用・発展」する学びや支援が有効であると考えられる。そのためには、資料提示の工夫や友だちとの学び合い、タブレット端末などを用いた新たな情報の取捨選択、多様な資料読解による多面的な社会的事象の分析、資料を通じた既存の認識の揺さぶりなどの具体的な支援が考えられる。このような支援を行うことで、再度子どもたちは社会的な見方・考え方を働かせ、「自分なりの結論」を再吟味したり、改善させたりして深い学びへとつなげることができる。その結果、社会的な見方や考え方が働き、さらに深化・発展することにつながると思う。



## 方策Ⅱ 単元構成 社会的な見方・考え方を働かせる学びの過程を単元構成に表す

ここでは、実際に社会的な見方・考え方を働かせる学びの過程の3段階を示し、段階ごとに重視すべき学習活動や支援の具体について述べる。教材研究により明らかになった知の構造をもとに、子どもたちの実態と照らし合わせながら単元のストーリーを構想する。子どもたちが主体的に追究を進めるためのしかけや支援、協働的な学びを生む学習活動、社会的な見方・考え方を深化・発展することができる思考操作活動や深まった課題の設定を教師が想定し、右の図のような単元構成図を作成する。概念形成の過程と一体化させながらも、子どもの意識のつながりを大切に構想していく。

### 第1段階 「問題を持ち・見通しをもつ段階」

見通しを持ち、問題を持ち場面では、子どものもつ既習知識、既有経験等を大切にしながら、教師の意図的な資料の提示や体験活動によって表出した子どもたちの疑問を整理し、単元を貫く学習問題（問い）を設定する。また、現段階で身につけている知識・技能、見方・考え方を働かせ学習問題に対する予想を話し合い、その予想から学習計画をつくる。

#### 【今後の研究の視点】

- ・学習意欲の向上と主体的に学びに向かう態度の育成に有効な第1次の在り方
- ・問いを生み出すための教師のしかけや支援
- ・学年内での内容のまとめや学年を超えた系統的な学習内容のつながりを生かす具体的方策

### 第2段階 「調べ・考え・表現し、まとめる段階」

追究する場面では、問題解決のために個による調べやまとめ学習（指導の個別化・学習の個別化）、集団での話し合い活動や様々な表現活動（協働的な学び）を行っていく。その過程では、子ども同士、また多様な他者との関係性（個と集団の学び）の中で、思考と表現を往還する思考操作を繰り返し、これまでに育んできた社会的な見方や考え方を働かせることにとどまらず、育むことができるように学習活動を工夫する。

#### 【今後の研究の視点】

- ・社会的な見方・考え方を働かせる学習活動の在り方
- ・個（指導の個別化・学習の個性化）と集団での協働学習の必要感のもたせ方
- ・概念的知識を生きて働く知識に質的に転換する学習活動の在り方

### 第3段階 つなぐ段階

学習のまとめの場面では、単元を貫く学習問題に対する自分の考えを言葉や文章、図で表現したりする学習や別の事例を取り上げて獲得した概念的知識を検証するような学習を行ったりして、一人一人の社会参画への足かがりとする。また、今後の社会の在り方や自分たちの生き方を選択・判断する「構想単元」においては、より実社会とのつながりを実感できるような単元づくりを行い、社会に参画しようとする態度を醸成していく。

#### 【今後の研究の視点】

- ・社会とのつながりを実感できる社会につなぐ段階の学習活動の在り方
- ・単元のゴールを見据え、子どもたちが自己の学びをメタ認知しながら学びを進める学習の方策

**方策Ⅲ** 社会的な見方・考え方を働かせる本時の学習構造

学習活動	予想される児童の意識の流れ	教師の支援と評価
<p>単元の学習問題と本時の学習問題のつながりを意識できるように、単元の学習問題を明記する。</p> <p>(前時まで)</p>	<p>前時までの学びから生まれている考え・意識を書く</p>	<p>○ ……</p> <p>○ ……</p> <p>授業前の事前の準備や支援を書く。意図的な掲示物、教師の見取りなど。</p>
<p>1 本時の課題を確認する</p> <p>前時の学習について記述した方がよい場合には、点線で区切り、その上に記述する。</p> <p>(2) ……</p> <p>(3) ……</p> <p>※子どもの学習活動を書く。 ～をする。</p> <p>3 ……</p> <p>(1) ……</p> <p>※個の活動か集団での活動かが分かるように明記する。</p> <p>(2) ……</p> <p>子ども同士での交流や全体交流を行う場合、両端矢印をつける。比較・関連・総合の考え方を活用する学習活動とつなぐ。</p> <p>4 ……</p> <p>5 ……</p> <p>右の子どもの反応と学習活動が一致するように記述する。</p>	<p>本時の学習問題を書く。 ※個別の反応を3人程度想定</p> <p>A 予想される反応を記述する。(A児をイメージ)</p> <p>B 予想される反応を記述する。(B児をイメージ)</p> <p>C 予想される反応を記述する。(C児をイメージ)</p> <p>A' B' Aに対して高まった反応や概念を記述する。</p> <p>B' C'</p> <p>C' A'</p> <p>教師教材</p> <p>A" B" に対して高まった反応や概念を記述する。</p> <p>B" C"</p> <p>C" A"</p> <p>※比較・関連・総合することにより、知がつながったり、新たな知が生まれたりする場合は、四角をつなげて記入する。</p> <p>個々の考えが交流を通じて、さらに深まったり、質が高まったりした考えなど、本時つかませたい最終的な概念(学習課題のこたえ)を児童の言葉で記述する。</p> <p>A"" B"" 個別の認識の深まり・変容</p> <p>B"" C"" 次時への課題・意欲</p> <p>C"" A""</p>	<p>○ ……</p> <p>○ ……</p> <p>～のために、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→ ～する。</li> <li>→ ～を助言する。</li> <li>→ ～を提示する。</li> <li>→ ～と問う。</li> </ul> <p>※教師は支援者であるという立場で記述する。</p> <p>※見方・考え方が働くような、教師のしかけや支援を明記する。</p> <p>※左の子どもの反応と支援と評価の位置が合致するように記述する。</p> <p>評 ……</p> <p>……</p> <p>……</p> <p>目標に対して、子どもたちの達成度を見取る基準を書く。何から、どのように見取るのか。何ができるようになっているかを書く。また、規準に到達していない子どもにどのような支援を行うのかを明記する。</p>

本時の学習指導の過程で重視する点は、個々の考えが社会的な見方・考え方を働かせたり、協働的な学びを経験したりして、個の認識が他者との学びから深まったり、質が高まることで概念が形成されていく過程が分かるように記述する。また、単元の段階によっては、概念が転移・応用され、概念が生きて働く知識・技能へと質的に高まる過程を想定して書く。

### 【前時まで及びつかむ段階】

本時にいたるまでの学習の過程や、単元の学習問題と本時の学習問題のつながりを想定し、本時の構成を考えていく。教師だけが認識しているのではなく、子ども自身が認識しておくことが大切である。子どもが、「今日は何を学ぶのか」「何を明らかにするのか」を再確認し、見通しをもって本時の学習に取り組めるようにする。

### 【調べ、考え、表現する段階】

#### ① 社会的な見方・考え方が働くような学習活動・教材・教具

##### ■社会的な見方

□視点Ⅰ「地理的環境と人々の生活」を働かせ→【地図に書き込む、地図を読むなど】

位置や空間的な 広がり の視点	地理的位置、分布、地形、環境、気候、範囲、地域、構成、自然条件、社会的条件、土地利用など
-----------------------	--

□視点Ⅱ「歴史と人々の生活」を働かせ→【年表に表す、資料から読み取るなど】

時期や時間の 経過の 視点	時代、期限、由来、背景、変化、発展、継承、維持、向上、計画、持続可能性など
---------------------	---------------------------------------

□視点Ⅲ「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」を働かせ→【仕組み図に表す、インタビューするなど】

事象や人々の 相互関係の 視点	工夫、努力、願い、業績、働き、つながり、関わり、仕組み、協力、連携、対策・事業、役割、影響、多様性と共生（共に生きる）など
-----------------------	---

■社会的な考え方 →「比較・分類したり総合したり、関連付けたりして考える。」

思考と表現を往還する思考操作を繰り返し、知識を再構成する。

本時では、見方・考え方を働かせるための具体的な学習活動を想定する。どのような「視点」で社会事象を捉えるのか、また捉えたことをどのように考えて、問いを解決したり、意味付けたりしていくのか、その具体的な学習活動や使用する教材、教具を明記していく。子どもの反応は、3人程度想定し、活動を通じてどのように認識が変容したり、知識と知識が協働的な学びによって結びついたりしていくか、概念の質的な高まりを想定して書く。

#### ② 社会的な見方・考え方の質的な転換を図る発問・指示

集団の議論を焦点化したり、本質的な学びに導いたりするような、質的な転換を図る発問や指示の在り方を考えていく。子どものつまずきや認識のズレを想定し、具体的な発問指示を考えておく。

例) 具体と抽象の往還 「例えば?」「つまり?」 選択・判断を問う「どちらが?」「一番は?」  
自分事として捉える「自分だったら…」 思考をゆさぶる「もし…だったら」

### 【まとめ・ふりかえる段階】

本時や単元の学習問題に立ち戻ったり、自己の表現物の変容を捉えたりして、学習のまとめやふり返りを自分の言葉で表現する。「分かったこと」(知識)と「考えたこと」(認識)を分けて書くなどの支援を行い、子どもの学びを見取ることができるようにする。

方策Ⅳ 学校教育目標と本時をつなぐ社会科授業構想シート

【単元構想シート】 第3学年 単元名「わたしたちのまち太田と高松市のようす」

学校教育目標	自分・人・地域を愛し、未来を創る子どもの育成	
資質・能力	思いあい 高めあう力	
Bタイプ	学校の特色を生かした「太田ふれあい活動」との統合	
社会形成力	多角的に考察する力、社会への関わりを選択・判断し、構想する力	
<b>1 本単元で目指す子どもの姿 【社会形成力を身につけた具体的な子どもの姿】</b>		
<p>・琴電伏石駅がついに開業したよ。駅前に大きなバスターミナルができて、県立図書館やゆめタウンにもいけるようになったよ。隣の空き地には、コンビニができるとバスや電車を利用する人には便利だと思ふな。どんなお店ができるか楽しみだな。 (↑構想する姿) (↓考察する姿)</p> <p>・坂出のおじいちゃん家の近くには瀬戸大橋があって工場が多いね。瀬戸大橋で岡山県とつながって交通が便利だから、工場がたくさんあるんだね。町にはそれぞれ特色があるんだね。</p>		
<b>2 目標 【総括的な単元目標】</b>		
<p>太田地域や高松市の様子について、県内における高松市の位置、地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、観察・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめ、太田地域や高松市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現することを通じて、太田地域や高松市の様子を大まかに理解できるようにする。</p> <p>身近な地域や高松市の様子について主体的に追究し、太田地区のよさや高松市の発展について関心をもち、市民の1人として今後の地域のよりよいあり方を考えようとする態度を養う。</p>		
<b>3 評価規準</b>		
知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
<p>①市の様子は、地域によってそれぞれ特色があり、違っていることを理解している。</p> <p>②情報を読み取り、絵や地図記号を用いながら白地図にまとめることができる。</p>	<p>①地域の特色を「地形」「土地利用」「交通」「公共施設」「古くから残る建造物」の視点から捉え、私たちの生活と関連付けて考え、地図に表現することができる。</p> <p>②市内の各地域の特色や人々の思いや願いをもとに、自分たちの町の未来を考え、よりよい様子を吟味し、構想することができる。</p>	<p>①地域の様子や住民の願いなどについて、意欲的に学習計画を立てたり、調べようとしたりする。</p> <p>②町の未来について、自ら進んで考え、発信しようとしている。</p>
<b>4 既習知・生活経験 【本単元につながる既習知・児童の実態等】</b>		
<p>生活科：まちたんけん 太田地区には様々なお店がある。琴電の駅や11号線がある。太田の町については生活経験から詳しく知っているが、他の高松市の地域について詳しく知っている子どもは少なく、子どもたちの間に知識や経験の差がある。</p> <p>初めての社会科単元であり、地図の読み取りや見学・インタビューの経験も少ない。</p>		
<b>5 内容 【本単元で獲得する学習内容】</b>		
<p>高松市は、場所によって地形や公共施設、古くから残る建造物などの様子が違っている。太田の町は、高松の中心にあり、駅や大きな道路があり生活に便利なところだよ。今後は、新伏石駅を中心にいろんな人々が利用できるお店や施設ができると、もっとすてきな町になっていくと思うよ。</p>		
<b>6 方法 【学びを達成するための学びの過程と教師のしかけや支援】</b>		
<p>学習問題：太田の新しい駅や周りの町は、どんな様子になればいいのだろう。高松市の他の地域をヒントに太田の町の未来地図を考え、琴電や市役所の方に提案しよう。</p>		
問題・見通しをもつ	第1次 太田校区にできる琴電新駅の様子や高松市について調べる学習計画を立てる。	
調べ、考え、表現し、まとめる	第2次 高松市の特色ある地域を分担して調べ、地域による違いや地域のよさをくらべ、まとめる。	
	第3次 太田の住民の願いを考え、太田の町がもつ役割や働きについて捉え直す。	
	深まった課題：伏石駅の周りは、どのように変わっていくといいのだろう？	
社会につなぐ	第4次 太田の町の未来地図を考え直し、市役所や琴電の方に提案する。	
<p>深い学びにするために【主に社会的な見方・考え方を働かせる、しかけ・支援】</p> <p>・身近な地域を軸に市の様子を捉え、他地域と太田の町を比較することで太田地域の特色を見出す。</p> <p>・教室サイズの大きな地図に太田の未来の町を構想する過程で、社会事象の位置や分布と役割を関連付けて捉えることができるようにする。</p>		
主体的な学びにするために		対話的な学びにするために
<p>・ゲストではなく、パートナーとして地域の方と共同的に学ぶ</p>		<p>・視点ごとに分かれたグループでの調べ学習</p> <p>・集団で吟味する場面の設定</p>

### 【学校教育目標・2タイプの社会科学学習】 日常の授業と学校教育目標をつなぐ

本単元で育む資質・能力と学校教育目標で育む資質・能力のつながりを明らかにする。そして、以下のどちらのタイプの社会科学学習で資質・能力に迫るのかを明記する。

Aタイプ「各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点（関連）に立って資質・能力を育てる社会科学学習」

Bタイプ「学校の特色を生かし、教科等横断的な視点（統合）に立って資質・能力を育てる社会科学学習」

社会形成力を育む社会科学学習の視点から、資質・能力のうち、本単元で重点を置く資質・能力を1つまたは複数をも明記し、学校教育目標とのつながりを確認する。

### 【1 本単元で目指す子どもの姿】

本単元を通じてどのような子どもを育みたいか、単元を終えた後の具体的な子どもの姿を想定する。特に、本単元で育てたい社会形成力（多角的に考察する力、社会への関わりを選択・判断し、構想する力、根拠をもって主張し、他者を説得する力、他者との合意形成・意思決定する力）について、どのような学習活動を通じて育成できるのかを記述する。社会科の学習により、どのように世界の見え方が変わり、自らの生活を豊かにしているかを記述する。

### 【2 目標・3 評価規準】

学習指導要領をもとに、単元の総括的な目標を2段階構成で明記する。指導要領内容アの(ア)知識と(イ)技能、及びイの(ア)思考力、判断力、表現力を関連付け、AからGの文脈で示された学びの過程として設定する。さらに、態度に関する目標を学年目標(3)の内容を踏まえて設定する。

◎Aについて、Bに着目して、Cして調べDにまとめ、Eを捉え、Fを考え表現することを通じて、Gを理解できるようにする。

○Aについての学習問題を主体的に追究し、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度と、誇りや愛情、自覚を養うようにする。

指導要領の内容は保障しつつ、研究の主張や単元の工夫に合わせ、目標を付加・修正する。

#### 【内容（ア～ウ）】

Aについて、学習の問題を追究・解決する活動を通じて、次の事項を身につけることができるよう指導する。

ア(ア)Gを理解すること。

(イ)Cして調べたりして、Dにまとめること。

イ(ア)Bに着目して、Eを捉え、Fを考え、表現すること。

#### 【学年目標(3)】

学習の問題を主体的に解決しようとする態度、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、～に対する誇りや愛情、～の自覚を養う。

### 【4 既習知・生活経験】

子どもは、「見方・考え方」を働かせ、新しい知識・技能を既に持っている知識・技能と結び付けながら社会の中で生きて働くものとして習得したり、思考力・判断力・表現力を豊かなものとしたり、社会や世界にどのように関わるかの視座を形成したりする。無から新たな知識が生まれるのではなく、これまでの学びや生活経験によって獲得している知識をもとにして、新たな知識を形成していく。

そこで、学習内容の系統性によって分類した視点Ⅰ～Ⅲの香社版社会科カリキュラムの中での、本単元の位置づけを考えることで、これまでの学びとこれからの学びについて学習内容を分析する。また、各学校の実態や地域性などを分析し、本単元の学習内容につながる生活経験を整理する。

### 【5 内容】

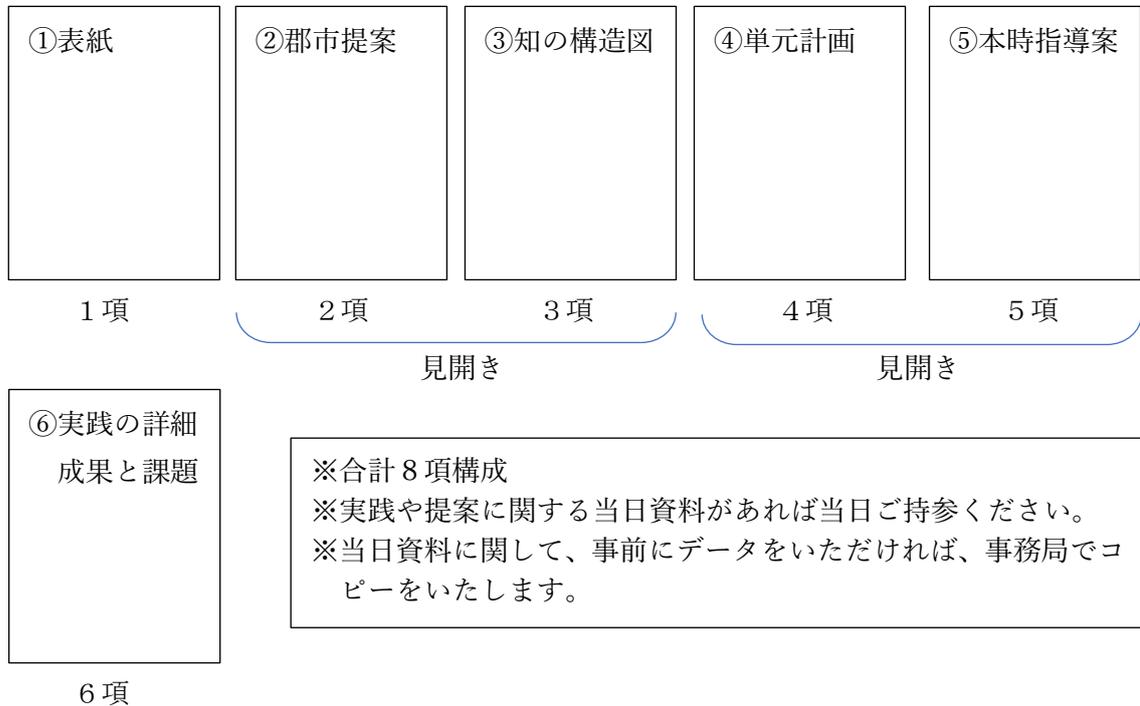
本単元の学習問題に対する答え（概念的知識）を子どもの言葉で書く。目標と照らし合わせ、2段階構成とし、1つ目は、知識・技能及び思考力・判断力・表現力の側面から記述する。2つ目は、深まった課題の解決や社会につながる段階の活動を経て、態度面としてどのような学びを得るのかを書く。

### 【6 方法】

主体的・対話的で深い学びを実現し、獲得すべき学習内容に迫るための学びの過程や教師のしかけや支援について記述する。まず、学びの過程では、単元の学習問題や深まった課題、第1次からの学びの過程に一貫性やつながりがあるかを確認する。特に、「深い学びにするために」では社会的な見方・考え方を働かせ、育むための具体的なしかけや支援を書く。「しかけ」とは、子どもが自ら見方や考え方を働かせるような教師の間接的な指導・支援、授業づくりである。教材開発、学習活動、単元構成の工夫、「ひと・もの・こと」との出合いなどが考えられる。「支援」とは、子ども達のつまづき等を想定して直接行う指導上の支援である。このような単元全体を見通した「しかけ」と具体的な場面での「支援」の両面から子ども達の学びを豊かにし、支えていく。

# 令和4年度夏季研要項 提案プロット（案）

## （1）夏季研要項プロットについて



## 2. 今年度の変更点について

今年度の夏季研は、半日開催となりました。短時間でも郡市間の研究の交流や質の高い研修の実現を目指したいと思えます。各分科会では、郡市の実践発表だけではなく、郡市の研究主題や論、研究の進捗状況などもご説明いただくことで、実践の背景にある論とのつながりを意識した分科会や討議にしていきたいと思えます。他郡市の研究内容や研究方法を知り、実践レベルだけではなく研究主題や研究論にまで議論が深まる有意義な分科会にしていきましょう。

郡市の研究部の先生方、実践者の先生方にはご負担をおかけすることになりますが、新たな研究を深めていくためにも、ご理解いただきご協力のほど、どうぞよろしく願いいたします。

ご不明な点がございましたら、事務局藤澤までいつでもご連絡いただければと思えます。どうぞよろしく願いいたします。

## 3. 夏季研に向けた日程

- ・第1回事前検討会 6月18日（土） 9：30～（附属高松小） 各郡市研究部長・庶務・提案者・協力者
- ・第2回事前検討会 7月 2日（土） 13：30～（附属高松小） 各郡市研究部長・庶務・提案者・協力者
- ・分科会要項提出 7月 9日ごろ ※後日お伝えいたします。
- ・当日事前準備 7月26日（火） 9：30～（附属高松小） 各郡市庶務・提案者・協力者
- ・夏季研当日 7月26日（火） 13：00～（附属高松小学校）

## 4. お問い合わせ

香川大学教育学部附属高松小学校 藤澤大地 fujisawa.daichi@kagawa-u.ac.jp



【令和4年度 香小研〇〇支部社会科部会 研究提案】

1 研究主題

1～4のプロットは、変えない。各分量は変更可。

2 研究主題について

研究主題設定の背景や、込められた思い、県の研究主題とのつながり等について述べる。

3 研究の内容

郡市ならではの研究内容について述べる。  
スペースが限られているので、概要を示したり、本年度の重点について詳しく書くなど、柔軟な対応をお願いいたします。研究内容が視覚的に分かるような、図やイラストも活用していただいても構いません。

4 研究の方法

研究主題の実現に向けて、どのような手立てを行ったか、行う予定かを述べる。  
各郡市の研修会や運営協議会などの日程や実践内容など、郡市の実態などが分かるような内容をお願いいたします。

① 目標および知の構造図

1 目標 【総括的な単元目標】

知の構造は、学習指導要領で示された単元の目標や学習内容と、先生方の教材研究の成果を融合させ、単元の本質に迫る道筋を明確にするために作成していただきます。

2 評価規準  
知識

①

②

単元においてどのような道筋で子ども達が学習内容を獲得するか、学習内容に迫るためにどのような教材を採用するか、先生方のこだわりを簡潔に記述してください。枠の形や数は、実践に応じてへんこうしてください。

※本単元で目指す子どもの姿

※本単元で目指す子どもの姿

※概念的知識（本単元で獲得する学習内容）

本時

※関連的知識

※関連的知識

本時の学習の位置づけが分かるようにする。本時では、どの知識を獲得する時間か、明確に示してください。

※事実的知識

※事実的知識

※事実的知識

※事実的知識

※既習知や生活経験

※既習知や生活経験

知識の構造図は、知識がだんだんと構造化され体系化されていく過程で知識の質が高まっていくという前提を踏まえたうえで、各郡市のオリジナリティあるものを出していただいて構いません。

例) 知識を結びつけるための見方・考え方を働かせる学習活動をセットで記述する。

例) 評価の視点を明記する。 など

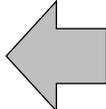
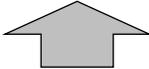
今年度からの研究ですので、皆さんの実践からよりよいものをつくっていきましょう。

② 単元指導計画

問題をもち・見通しをもつ	第1次 (時間)	調べる・考える・表現し・まとめる	第2次 (時間)
	①		①
	②		②
	【学習問題】		③
	【学習計画】		第4次 (時間)
	I		①
	II		②
	III		◎深まった課題
	IV		第5次 (時間)
			①
			②
	第6次 (時間)		
つなぐ	①		

3つの学びの過程および他教科等との関連を意識し、子ども達の自己調整の学びにつながるよう単元計画の形式については、こちらの形式での提出をお願いいたします。お手数をおかけしますが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。郡市ならではの単元形式等も、ぜひ当日資料等で紹介していただけるとありがたいです。

関係 ○ ○ ○



③ 本時の学習指導

本時の目標

本時の形式については、各郡市の形式のものではないです。ただし、以下のような県提案につながる部分を、太字やゴシック、下線などで強調して記載してください。

- ・ 社会形成力の育成につながる学習活動
- ・ 社会的な見方・考え方を働かせ育む学習活動
- ・ 選択、判断や構想する子ども達の姿 など

<p>学習活動</p> <p>(前時まで)</p>	<p>学習活動</p>	<p>教師の支援と評価</p>
<p>1</p>	<p>[Empty box]</p>	
<p>2</p> <p>(1)</p> <p>(2)</p>	<p>[Flowchart structure]</p>	<p>○</p>
<p>(3)</p>	<p>[Flowchart structure]</p>	
<p>3</p> <p>(1)</p> <p>(2)</p>	<p>[Flowchart structure]</p>	
<p>4</p>	<p>[Flowchart structure]</p>	<p>評</p>
<p>5</p>	<p>[Flowchart structure]</p>	

## ④ 実践の具体

## ①教材化の工夫

○本単元で獲得する学習内容に迫るために、目指す子どもの姿を実現するために、社会形成力を養うために・・・どのような社会事象を選定し、教材化したか。教材の具体や、教材化のプロセス等を記述する。

## ○教材化の視点例

- ・主体的な追究を生むために・・・をする。
- ・見方・考え方を働かせるために・・・をする。
- ・現代的な諸課題をとらえさせるために・・・をする。
- ・横のつながり（単元間・教科等横断）を生むために・・・をする。
- ・縦のつながり（学年間）を生むために・・・をする。
- ・本物の人や社会が見えるために・・・をする。 など

## ②単元構成・学習活動等の工夫

○主体的で対話的な深い学びを実現するために、社会形成力を養うために、見方・考え方を働かせるために、どのような単元構成や学習活動の工夫を行ったかその具体を記述する。

例)

## 【単元レベルの工夫】

- ・見通しとゴールの設定
- ・人や本物との出会い
- ・社会とつながる場の設定 など

## 【次レベルでの工夫】

- ・個別最適化された調べ学習や表現活動
- ・地域の方との協働的な学びの実現 など

## 【本時レベルでの工夫】

- ・見方・考え方を働かせるような問い、発問、教材、教具の工夫
- ・社会形成力につながる子どもたちの選択・判断、吟味、議論 など

※ 全てを実現するのではなく、実態や郡市の研究に合わせた実践をお願いいたします。

## 成果と課題

- 
- 
-



# 5項 知の構造図の例（4年『わたしたちの県』の場合）

## ② 知の構造図

その土地の地形や気候に合わせた産業が行われているのは、他の県も同じかもしれない。他の県についても調べてみたいな。

調べてみると、香川県には地形や土地利用、交通などで特徴があることが分かった。出かける時は、注目して見てみよう。

**【生きて働く知識・技能】**  
獲得した学習内容を踏まえて、世の中の見え方が変わり、生活を豊かにしようとする姿を書きます。

香川県は瀬戸内海に面しており、岡山県や徳島県、愛媛県と隣り合っている。県の北の方は市街地や工場が広がり、交通も発達している。土地利用や産業は、その場所の地形や気候の様子に合わせて行われている。

**【関連的知識】**  
習得した知識を比べたり、関連させたりした知識について書きます。

香川県の地形と土地利用の様子は関連している。人々は香川県の地形や気候などを生かして土地利用を考えている。交通は人が多いところに発達している。

**【概念的知識】**  
関連的知識をさらに抽象化した知識として、本単元で習得させたい学習内容について書きます。単元構成の最後の部分と対応しています。

香川県では、その土地の地形や気候を生かした産業が行われている。高松空港からは、国内だけでなく外国へ行くこともでき、人やものが運ばれている。

**【事実的知識】**  
単元を通して学ぶ内容のうち、習得する知識を具体的に書きます。

香川県の北、海沿いは土地が低く、市街地が広がっている。中央にため池が多く、田や畑が広がっている。南には讃岐山脈がある。

香川県の北の海沿いにJR線が通っており、岡山県や徳島県に行ける。高速道路でも県外へ行ける。船で多くの島と結ばれている。

香川県は市や町ごとに様々な特産品がある。場所の地形や気候を生かして特産品をつくっているところが多い。

**【既習事項・既有経験・素朴概念】**  
主に、これまで学習した内容で本単元につながる内容について書きます。

高松市は北の方が土地が低く、南にいくほど土地が高くなっていった。竜王山などの高い山もあった。

高松市は、北の方に市街地が多く、海の近くに工場がある。山の斜面を利用して、みかんをつくっている。

高松市は、高松駅のあたりを中心に交通が広がっている。市の中央には高松空港がある。高松市は盆栽が特産である。

南の方の高いところでは、お茶がつくられている。庵治などの海の近くでは、魚がとれ、日曜市が開かれる。

# 令和4年度 香社研定例研修会運営方針（案）

香社研事務局

## 1. 開催の目的

定例研修会は、各郡市が香社研の研究主題を受けて特色ある研究主題を設定し、その研究成果と課題を公表する。県内および会員に留まらず、広く参会者を募ることで、研究の輪を広げ、研究を深め、香川の社会科教育のさらなる発展を図ることを目的とする。

## 2. 研修会の内容

香社研の研究が充実するよう各郡市で提案、運営の工夫を行う。研究提案、実践報告、授業公開、地域教材の紹介、模擬授業、香社研だよりによるアピールなど、各郡市の特色を発揮し、魅力あるものにしていく。

## 3. 運営方法

- （1）定例研修会は、香社研が主催する。
- （2）定例研修会の会場確保、指導者の依頼、当日の運営については当番郡市が行う。
- （3）基本的に2郡市による合同開催とし、具体的な開催方法等はペア郡市で検討し決定する。
- （4）夏季研を担当した郡市は、定例研を担当しない。
- （5）さ・東社研と小豆社研は、交代で開催を担当する。令和4年度は、小豆社研が担当する。

## 4. 郡市の組み合わせについて

令和4年度とに関しては、各郡市の実情に合わせて、郡市間での協議のうえ決定する。

## 5. 運営費

- （1）香社研から各開催郡市に対して、定例研運営費を支給する。
- （2）運営費は、開催に必要な消耗品（飲み物・印刷代・会場費）や指導者への謝礼等に活用する。  
2郡市共催の場合は、互いの庶務間で協議し、折半する。
- （3）会場費用および指導者への謝礼は、お礼の品とする。
- （4）各郡市庶務は、運営費の領収書を香社研事務局に提出する。

## 6. 令和4年度 開催日程

	日程	開催郡市	会場
第1回 定例研	令和4年 9月10日（土）9：00～	丸亀 & 高松	附属高松小学校
第2回 定例研	令和4年 10月1日（土）9：00～	三・観 & 仲・善	まんのう町立 満濃南小学校
第3回 定例研	令和4年 11月12日（土）9：00～	坂・綾 & 小豆	附属高松小学校

## 7. これまでの定例研開催実績

	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
6月	高松	丸亀 仲善	高松	丸亀	高松	坂・綾	仲・善	小豆 さ・東		
7月	小豆, さ・東	小豆 さ・東	丸亀 仲善	高松	丸亀	高松	坂・綾	高松		
夏季研	丸亀 仲善	高松	坂・綾	小豆 さ・東	高松	三・観	高松	仲・善 -丸亀-	仲・善 (丸亀)	高松
9月	坂・綾	坂・綾	小豆 さ・東	三・観	小豆 さ・東	丸亀	三・観	坂・綾	坂・綾	9/10 (土)
10月	三・観	三・観	高松	仲・善	三・観	高松	丸亀	三・観		10/1 (土)
11月	高松	高松	三・観	坂・綾	仲・善	小豆 さ・東	高松	丸亀	11/6 さ東 11/26 三・観 丸亀	11/12 (土)
12月						坂・綾	仲・善	小豆 さ・東	高松	高松 (北・南)
研究 フォーラム	附坂小	附高小	附坂小	大慰労会 (栗林公園)	附坂小	附高小	附高小 (小倉先生と 語る会)	附坂小 (大定例研)	附高小 (交流会)	附坂小

## 8. 定例研当日の日程例

- 9:00～9:10 開会行事
- 9:10～10:10 ○○社研提案・討議等
- 10:10～10:25 ご指導
- 10:25～10:35 休憩及び後半準備
- 10:35～11:35 ○○社研提案・討議等
- 11:35～11:50 ご指導
- 11:50～12:00 閉会行事



昨年度のように

ペア郡市で内容等を、  
検討してください。



## 9. 開催や運営に関する問い合わせ

- ・開催日時、会場が決まり次第、香社研事務局藤澤までご連絡ください。
- 附属高松小学校 藤澤 087-861-7108 fujisawa.daichi@kagawa-u.ac.jp

## 次年度以降の夏季研修会及び四国地区社会科教育研究協議会について

事務局

### (1) 令和7年度までの予定

年	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
夏季研	仲・善 (丸亀)	高松	坂・綾	小豆 さ・東	高松
香小研大会	教科②	教科外	丸亀 郡家小	教科②	教科外
四国大会	高知 令和2年度 大会順延の為 3年度に開催	愛媛 松山市立 宮前小学校 11月2日	理事会のみ 香川で開催	香川大会 観音寺市立 柞田小学校	徳島県
全国大会	大阪大会 丸亀・岡田小 尾崎先生提案	北海道大会 6年実践提案 三・観	東京大会	島根大会	群馬大会
	佐賀大会	熊本大会 3年実践提案 小豆社研		和歌山大会	

### (2) 令和4年度以降の詳細について

令和4年度	
夏季研修会	日 時：令和4年7月26日（木） 担当郡市：高松支部 会 場：香川大学教育学部附属高松小学校
香小研大会	教科外担当の年のため社会科部会は発表なし
四国大会 (愛媛県)	日 時：令和4年11月2日（水） 会 場：松山市立宮前小学校 9:00~16:00 備 考：5月末までに大会助言者・代表報告者の報告 香川県は3年・6年指導助言者 5年の代表質問者の依頼有り
令和5年度	
夏季研修会	日 時：令和5年7月 担当郡市：坂・綾支部 会 場：未定
香小研大会	日 時：令和5年10月26日（木） 担当郡市：丸亀支部 会 場：丸亀市立郡家小学校 備考：詳細は、令和4年度に提案
四国大会 (理事会のみ)	※ 理事会のみ香川県にて開催予定 日 時：令和5年秋頃を予定 担 当：中学校事務局 会 場：未定 詳細が分かり次第お伝えいたします。
令和6年度	
夏季研修会	担当郡市：小豆、さ・東
香小研大会	教科②の年のため、社会科部会発表無し。
四国大会 (香川県)	会 場 校：観音寺市立柞田小学校

## 令和4年度 社会科の基礎・テスト 編集委員会

**(1) 本年度の重点事項**

- 子どもにとって「力が伸びる、伸びが分かる」基礎・テスト。  
基礎的な知識・理解、技能の習得と、それらを活用して解決する問題の作成。
- 教職員にとって「本当に使える」基礎・テスト  
3社の教科書に対応した指導要領準拠の問題作成。  
分かりやすい解答表記、使いやすい教科書対応ページ表記などの工夫。

**(2) 年間計画等**

年	令和4年										令和5年		
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
作成予定		①	②	③									
		R5年前期版作成											
						④	⑤						
					R5年後期版作成					事務局による校正・入校			

**【年間計画】**

回	日時	内容	備考
①	<del>5/14 (土) 9:30~</del> <del>(附属高松小ランチルーム)</del> <b style="color: red;">感染症対策のため中止</b>	担当決め <b style="color: red;">(電話連絡等)</b>	■事務局が指定したまとめ役の先生を中心に、単元等の役割分担を行う。 <b style="color: red;">(電話等)</b>
②	6/4 (土) 9:30~ (附属高松小ランチルーム)	協議・作成	
③	7/2 (土) 9:30~ (附属高松小ランチルーム)	前期版協議 後期担当決め	■令和4年度後期版担当決めを行う。
提出	<input checked="" type="checkbox"/> 7/22 (金) <input checked="" type="checkbox"/> 8/1 (月)	まとめ役必着 事務局藤澤必着	
④	9/10 (土) 14:00~ (附属高松小ランチルーム)	協議・作成	
⑤	10/1 (土) 14:00~ (附属高松小ランチルーム)	協議・作成	■交通費、執筆費受領(5回分) (受領印を持参)
提出	<input checked="" type="checkbox"/> 10/28 (金) <input checked="" type="checkbox"/> 11/14 (月)	まとめ役必着 事務局藤澤必着	

**(3) 役割分担等**

■編集責任者 (指導、添削等)	・・・教頭先生
■まとめ役 (原稿執筆、司会、取りまとめ等)	・・・編集者の中から1名
■編集者 (原稿執筆)	・・・残りの先生方
■編集補助【事務、研究】	・・・事務局5名

**(4) 担当連絡先**

香社研事務局 附属高松小学校 藤澤 大地  
〒760-0017 香川県高松市番丁5-1-55 fujisawa.daichi@kagawa-u.ac.jp

## 社会科の基礎 表紙絵コンクールについて（案）

### 1 変更理由および方針について

現在、社会科の基礎の表紙は、平成 29 年度の夏休み作品募集で集まった作品の中から選定された児童の作品を使用しています。今年度、社会科の基礎の表紙デザイン募集を行い、令和 5 年度版からデザインを変更したいと思っています。その際、全体のレイアウトやカラーも変更を加えたいと考えています。

デザイン募集を通じて、子ども達に社会科に興味を持ってもらい、県内の先生方や子ども達に愛着をもって、社会科の基礎を活用してもらいたいと思います。

### 2 現在のデザインと変更後のデザインイメージ



### 3 作業スケジュール

5 月中	募集要項作成を作成する。
6 月上旬	県内小学校に募集要項送付する。
9 月上旬	作品の写真データ（A3）、応募者名簿を回収する。
10 月 15 日（土）	社会科の基礎・テスト編集会にて、審査会を実施する。
10 月中	審査結果発表と作品（現物）を回収し、賞状と副賞を送付する。
11 月以降	基礎の校正作業とともにデータの入稿を行う。

担当 水口

# 社会科の基礎 表紙絵コンクール 募集要項

## 1 目的

- ・香川県の子供達が社会科の学習内容に興味をもち、社会科の学習が楽しくなるきっかけとなることを期待して社会科の基礎の表紙絵を募集します。

## 2 課題

- ・各学年の社会科の学習内容に関する絵画  
(例) 3年生 農家の仕事のようす 販売のしごとのようす 地域の観光地 など  
4年生 伝統的な行事・建造物 上下水道・電気・ガス 香川県の風景 など  
5年生 日本の農林水産業のようす 情報化した社会のようす 日本の風景 など  
6年生 憲法や選挙 国会・内閣・裁判所 歴史的な出来事 国際社会に関する絵 など

## 3 応募資格

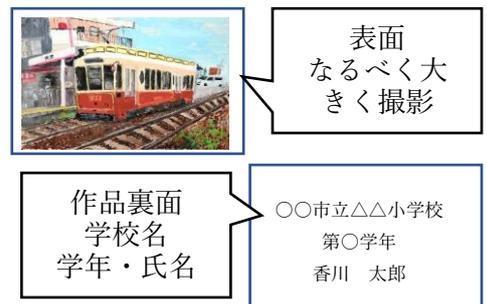
- ・香川県内小学校 3～6年生児童

## 4 作品の制作方法

- (1) 規格 四つ切り画用紙 1枚分
- (2) 色彩・紙質 色彩方法、紙質等は自由とする。
- (3) 応募点数 各学校での制限はなし。1人につき数点の応募も可とする。合作は不可とする。
- (4) 注意点 標語やタイトル等はいれない。

## 5 応募方法

- (1) 作品を学校に提出(保護者の皆様)
  - ・画用紙の裏面に、学校名、学年、氏名をお書きください。
- (2) 作品の写真を提出(各学校担当者様) → 
  - ・作品をデジカメ等で撮影しA3サイズ(普通紙)に印刷したもの
  - ※写真を印刷した裏面に学校名、学年、氏名を記入してください。
  - ※印刷した物を封筒等に入れて、下の住所に送付してください。
  - 印刷したものを半分に折っても構いません。
  - ※審査結果の日まで、児童の作品を各学校で保管してください。



### 【作品送付先】

- ・〒760-0017 香川県高松市番町5丁目1-55 香社研事務局 水口 純 宛て

- (3) 作品の実物を提出(各学校担当者様)

- ・審査の結果、各賞に選ばれた応募者が在籍する学校に通知します。その後、入賞作品を上記の【作品送付先】までお送りください。

## 6 審査方法

- ・審査員(香社研会員)による審査を行い、以下の各賞を決定する。賞状と副賞を贈呈いたします。  
3年生部門 優秀賞2点 佳作4点      4年生部門 優秀賞2点 佳作4点  
5年生部門 優秀賞2点 佳作4点      6年生部門 優秀賞2点 佳作4点

## 7 発表

- ・入賞作品は、10月下旬頃に香社研ホームページにおいて公表する予定です。
- ・入賞された場合は、11月下旬頃を目途に入賞者が在籍している学校に通知します。

## 8 入賞作品の取り扱い

- ・入賞作品の著作権は香川県社会科教育研究会に帰属します。
- ・入賞作品は香社研ホームページ、facebook、その他香川県社会科教育研究会が発行する印刷物等で使用します。その際、児童の氏名、学校名、学年は公表しません。

## 9 お問い合わせ

〒760-0017 香川県高松市番町5丁目1-55 香社研事務局 水口 純  
電話 087-861-7108 メールアドレス [mizuguchi.jun@kagawa-u.ac.jp](mailto:mizuguchi.jun@kagawa-u.ac.jp)

令和4年度 香川県社会科教育研究会

# 社会科のまそ



## 表紙絵



## コンクール

かがわけんない しょうがっこう ひろ かつよう しゃかいが きそ ひょうし  
香川県内の小学校で広く活用されている、「社会科の基礎」の表紙デザインを  
リニューアルします。そこで、表紙に掲載する社会科学習に関する絵画を県内  
しょうがくせい みな ぼしゅう すてき さくひん おうぼ  
の小学生の皆さんから募集します。ぜひ素敵な作品を応募してください。

あなたの<sup>さくひん</sup>作品が、  
「<sup>しゃかいが きそ ひょうし</sup>社会科の基礎」の表紙に！？



にゅうしょうさくひん  
入賞作品は  
ひょうし さいよう  
表紙に採用！

しゃかいが じゅぎょう  
社会科の授業で  
まな  
学んだことや、  
けんがく ぼしよ ようす  
見学した場所の様子など  
しゃかいがくしゅう かんけい  
社会科学習に関する  
かいが ぼしゅう  
絵画を大募集！

さらに！  
にゅうしょう かた  
入賞した方には、  
しょうじょう きねんひん  
賞状と記念品を  
プレゼント！

応募方法（詳しくは各学校へ配布した案内をご覧ください）

- ① 作品の大きさ：四つ切り画用紙
- ② 題材：小学校社会科3～6年生の学習に関するもの
- ③ 応募期間：令和4年9月9日(金)まで

## 令和4年度 香社研 若年交流会計画(案)

通算11回行ってきた香社研フィールドワークでは、県内だけではなく全国の様々な地域の歴史、伝統、文化や人々の温かい心に触れることができ、多くのご参加いただいた先生方からご好評をいただいております。

過去2年間は新型コロナウイルスの影響で中止させていただきましたが、今年度は何らかの形で、会員の皆様の交流が図れる研修を計画したいと考えています。香社研の会員間のネットワークを広げることはもちろんのこと、会員でない方の参加も呼びかけて交流を深めたり、教材への造詣を深めたりしていきたいと思っております。

### 1 目的

- ・ 現地調査での体験・見学を通して、教材研究を深める。
- ・ 県内外の研究発表会、学会などに参加し、社会科の専門的な知見を得る。
- ・ 教科、世代を問わず香社研や教員同士の親睦を深める。

### 2 内容（現在のところ、下記の3案で検討しています。）

第1案としては、昨年度計画していた、四国大会の開催地である愛媛県での研修です。見学地については、教科書等に載っている事例（道後温泉周辺、松山城、みかん栽培、今治タオル工場、四国カルスト、村上水軍関連施設など）から選定します。

第2案としては、県内にある名所や歴史的建造物、博物館や資料館等の施設での研修です。社会科教員ならではの視点で、教材として魅力ある事例地や、新しくできた施設など、家族旅行では行かないであろう見学地を選定し、明日の授業に使える学びを生む場所を選定する計画です。

第3案としては、オンラインで開催されている研究会や学会などへの参加です。研修の機会も減少していることから、実際の授業をオンラインで参観したり、社会科教育系の学会等に参加したりすることで、社会科教員としての専門性を高める研修を行いたいと考えています。

なお、時期や研修内容、実施方法等については若年交流会の役員の先生方でオンライン会議システムや電話等を使って検討を行い、最終決定していきます。

### 3 備考

- ※ 新型コロナウイルスの状況等を考慮しながら、実施内容について判断していきます。
- ※ 令和3年度年度末理事会でご提案させていただいた、第1回研修会（令和4年5月14日土曜日）は中止となりました。関係する先生方へご連絡をお願いいたします。

# 香社研研究フォーラム 2022(案)

## 1 目的

- ・ 各都市の実践を交流し, 研究を深化し, 来年度の研究の方向性を探る。
- ・ 香社研の研究を広く県内外や他教科の先生方にも広める。
- ・ 次世代を担う若手のがんばりを賞賛する場とする。
- ・ 授業実践から学ぶ目を育てる。

2 日時 令和5年2月18日(土) 12:30~16:50(予定)

3 場所 香川大学教育学部附属坂出小学校 体育館

## 4 日程・内容

※ 日程及び内容は、今後検討し、理事会で提案させていただきます。

## 5 備考

- ・ 新型コロナウイルスの状況等を考慮しながら, 実施内容について判断していきます。
- ・ 各都市で, フォーラムで提案する内容を検討していただきたいと思います。

# 「香社研平成の歩み」について

## 1 目 的

香社研の平成 30 年間の様々な取り組みをまとめることで、近年の香社研の活動やその成果について、発信するとともに、デジタルで記録に残す。

## 2 内 容

- 研究主題、役員組織、年間計画など、平成 30 年間の「社会科教室」の内容

## 3 作成方法

平成 30 年間の「社会科教室」を集め、PDF 化してデータ保存する。

## 4 作成計画

令和 2 年度 平成 30 年間の「社会科教室」を集める

令和 3 年度 集まった「社会科教室」を PDF 化する

※ 以下の表にゴシック表記で示した号については、すでに集めている。

平成元年度	122 号 123 号	平成 16 年度	146 号
平成 2 年度	124 号 125 号	平成 17 年度	147 号
平成 3 年度	126 号 127 号	平成 18 年度	148 号
平成 4 年度	128 号 129 号	平成 19 年度	149 号
平成 5 年度	130 号 131 号	平成 20 年度	150 号
平成 6 年度	132 号 133 号	平成 21 年度	151 号
平成 7 年度	134 号 135 号	平成 22 年度	152 号 153 号
平成 8 年度	136 号 137 号	平成 23 年度	154 号 155 号
平成 9 年度	138 号 139 号	平成 24 年度	156 号 157 号
平成 10 年度	140 号	平成 25 年度	158 号 159 号
平成 11 年度	141 号	平成 26 年度	160 号 161 号
平成 12 年度	142 号	平成 27 年度	162 号 163 号
平成 13 年度	143 号	平成 28 年度	164 号
平成 14 年度	144 号	平成 29 年度	165 号 166 号
平成 15 年度	145 号	平成 30 年度	167 号 168 号

## 5 進捗状況

- 先生方の協力により、社会科教室 133 号、145 号以外は全て集めることができている。
- 新日本印刷株式会社に PDF 化をお願いし、完了している。（ただし、一部修正の必要あり）
- 133 号、145 号については、引き続き収集を進める。

# 令和4年度 会計予算(案)

香川県小学校社会科教育研究会

## 1 収入の部

科 目	令和4年度予算	備考
会 費	155,000	1,000円×会員数
繰り越し	0	
合 計	155,000	

## 2 支出の部

科 目	令和4年度予算	備 考
研究 推 進 費	定例会会場費	90,000 15,000円×6郡市
	夏季研会場費	15,000
	図書費	5,000
	研究フォーラム	10,000
	その他	5,000
印刷 費	総会要項等	20,000
	研究冊子等	
事務 費	事務用品	5,000
	通信費	5,000
来年度繰越金		0
合 計		155,000

# 香川県小学校社会科教育研究会会則

## 1 総則

第1条 本会は、香川県小学校社会科教育研究会という。

第2条 本会は、会員相互連絡協調して、香川県社会科教育の振興を図ることを目的とする。

第3条 本会は、社会科教育に関心をもち、本会の趣旨に賛同する者をもって組織する。

## 2 事業

第4条 本会は、その目的を達成するために次の事業を行う。

- 1 社会科教育振興に関する研究会、発表会、講習会を開くこと
- 2 社会科教育に関する資料の収集、情報交換をすること
- 3 社会科教育に関する編集、刊行をすること
- 4 定例研究集会及び研究委員会等の開催に関すること
- 5 文部科学省並びに香川県教育委員会等の諮問に答え、意見の具申をすること
- 6 その他社会科教育に関すること

## 3 役員

第5条 本会に、次の役員をおく。

会長 1名 副会長 若干名 幹事 若干名 会計監査 2名  
理事（各郡市代表）若干名 顧問 若干名  
事務局（運営・会計・研究部代表・編集部代表）若干名

第6条 会長、副会長は、理事会の議を経て、総会において承認する。

幹事、会計監査は、会長の指名とする。

理事は、各郡市研究会から選出する。

顧問は、本会の歴代会長とする。

事務局は、会長の指名とする。

ただし、自然災害、感染症予防等やむを得ない事情により総会が開催できないときは理事会の承認をもって議決とする。

第7条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。

副会長は、会長をたすけ、会長事故のあるときは、その代理をする。

幹事は、本会の目的を達成するよう援助する。

会計監査は、会計事務を監査する。

理事は、理事会を構成し、重要事項を審議または議決し、会務の執行にあたる。

事務局は、運営事務、会計事務、研究事務、編集事務を処理する。

第8条 役員の任期は、1ヶ年とする。但し、重任することができる。

補欠役員の任期は、残任期間とする。

役員は、任期が満了しても後任者が就任するまで、その職務を行わなければならない。

## 4 理事会

第9条 理事会は、必要に応じて会長が招集する。

第10条 理事会は、総会に提出する議題を審議し、会務の執行に当たる。ただし、緊急を要する場合には会長、副会長で処理し、次の理事会の承認を求めるものとする。

## 5 総会

第11条 総会は、必要な場合会長が招集する。

第12条 総会は、必要に応じ、理事会から提出された事項について協議し、承認する。

## 6 定例研究集会

第13条 本会の事業を遂行するために、定例研究集会を開催する。

第14条 定例研究集会の組織及び運営については、理事会で決定する。

## 7 研究委員会等

第15条 本会の事業を遂行するために、研究委員会及び社会科の基礎・テスト編集委員会を開催する。

第16条 研究委員会及び社会科の基礎・テスト編集委員会の組織及び運営については理事会で審議し、委員会は会長が招集する。

## 8 会計

第17条 本会の経費は、会員の会費、寄付金並びに事業による収入金による。

第18条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第19条 本会の予算の議決および決算の承認は、総会で行う。

### 附則

- 1 本会の規約の改廃は、理事会で決める。
- 2 本会の施行に必要な細則は、別に定める。
- 3 本規約は、昭和24年4月1日より施行する。
- 4 平成13年1月8日改正、平成13年4月1日より施行する。
- 5 平成21年4月29日改正、同日より施行する。
- 6 平成22年4月29日改正、同日より施行する。
- 7 令和4年5月7日改正、同日より施行する。